

物流体制の見直しから魅力度アップ

～ 全国に大型倉庫を配置するダイソーの戦略 ～

100 円ショップの品揃えの豊富さと、品質の高さは年々進化しています。日常生活で何かを購入するときにも、まず「100 円ショップにないか?」と考える人が多いのではないのでしょうか。しかし、100 円ショップも「ダイソー」「キャンドゥ」「セリア」など様々な店舗があります。これだけ 100 円ショップが増えてくると、競争が激しくなります。100 円ショップ同士の戦いに勝つために、そして消費者の満足度を高めるために、現在、「コスト削減」「欠品防止」がクローズアップされています。



100 円ショップ最大手の「ダイソー」は、物流体制を見直し、これまで広島県内にしかなかった配送拠点の大型倉庫を、2012 年 6 月からの 3 年間で 300 億円前後を投じて、全国 9 か所に配置する予定です。

これまでダイソーは、中国などの海外で生産された商品を本社そばの東広島市の主力倉庫に集約し、そこから全国 25 か所の中小規模の倉庫を経由して、各店舗に運んでいました。これだと、各店舗が商品を発注してから入荷するまで、2 日～1 週間かかってしまいます。時間がかかればかかるほど人件費や輸送費がかさむようになり、それだけ割高になって商品の魅力度を下げてしまいます。また、欲しい時に商品がないという欠品の可能性を高めてしまい、来店者の満足度を下げてしまいます。

そこでダイソーは、広島県内にしかなかった店舗への配送拠点となる大型倉庫を全国 9 か所に配置し、国内 2600 店をカバーする体制を整え、配送期間を発注後 2 日以内に短縮するようにしました。2012 年 6 月に埼玉県に、7 月には大阪府に、2 ヶ所合わせて約 100 億円を投資して倉庫を建設しました。それ以降、福岡県、新潟県、愛知県、千葉県、北海道などに建設を予定し、倉庫の床面積は 3 年以内に約 33 万平方メートルから 3 倍程度に増えることとなります。これらの倉庫では、出荷指示に応じた在庫品を選び取る自動倉庫になっています。

この国内の物流体制の整備に合わせて、中国・上海市の輸出拠点を大幅に増強し、国内の大型倉庫に直接配送するように切り替えます。そのことによって、割高な国内の輸送費も節約でき、「欠品防止」と「コスト削減」を同時に達成することができるのです。